



主催者の想い

「東京高円寺阿波おどり」は昭和32年、町の賑わいを求めて始まりました。

以来、高円寺の町に生まれ、高円寺の人々に受け継がれて六十余年。

苦しいときにこそ、この町に寄り添い活動を続けていきたい、

そのような想いを胸に、これまでさまざまなチャレンジを続けてまいりました。

〈地域〉と〈阿波おどり〉の魅力を発信し、杉並区・高円寺に元気を取り戻したい。

そのために関係者一丸となって、感染症対策を施しながら

実現可能な企画の検討を進めております。

『光も踊る 東京高円寺阿波おどりplus+』をはじめとする、新しい生活様式に適合した
交流・鑑賞プログラムの今後の展開に、どうぞご期待ください。

東京
阿波おどり

〈中央線あるあるPROJECT〉とは

中央線あるあるプロジェクトでは、「なみじゃない、杉並」を合言葉に、杉並区内の中央線沿線（高円寺、阿佐ヶ谷、荻窪、西荻窪エリア）の情報を発信しています。このエリアには、食、文学、音楽、アニメ、ファッション、「東京高円寺阿波おどり」や「阿佐谷七夕まつり」といったさまざまなイベントなど、地域の生活の中で培われた「中央線文化」と呼ばれる個性派揃いの魅力がぎゅー。そんな「なみじゃない」魅力を、あなたも体験してみませんか？詳しくはWEBサイトまたはfacebookページをご覧ください。



なみじゃない、杉並！
中央線あるあるPROJECT

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、お出かけの際は、マスクの着用・手洗い・こまめな手指の消毒にご協力をお願いいたします。

高円寺
阿波おどり
×NAKED
Groovy Waves



音が波打ち、響き、咲く

光も踊る 東京高円寺阿波おどりplus+

高円寺は今日も元気です！
いつでも遊びに来てね





光も踊る 東京高円寺阿波おどりplus+ 感覚を揺さぶる、 かつてない阿波おどり体験

コンセプトは、〈伝統芸能×最新デジタル〉。

60年以上の歴史を誇る「東京高円寺阿波おどり」と

先進的なデジタル技術を掛け合わせた、日本屈指の芸術ショーが誕生しました。

踊り手の掛け声や鳴り物の音色に合わせて映像が変化する

プロジェクションマッピングは、いつもとは一味違う、“音を目で見る”阿波おどり。

リアルとデジタルが彩る幻想空間をお楽しみください。

クリエイティブカンパニー「NAKED, INC.」が手掛けた
プロジェクションマッピングによる光の演出が見どころ。

“ぞめき”と呼ばれる阿波おどりの音を

「低音」「中音」「高音」「BPM」の要素に分析、

それぞれに対応した映像を自動生成。

千変万化な光の演出が、阿波おどりの新たな魅力を引き出します。

Check!

公演の様子は
こちらから!



「波」

“阿波おどり”の名前から連想した、音の「波」がモチーフ。低音と中音から生成された波が揺れ、高音によって飛沫が上がリ、BPMに合わせて波の色が変化するスピードが変わります。



「響」

ぞめきの響きが視覚化され、空間へ広がるイメージ。音域により形を変える力強い“響き”が、アクロバティックな男踊りやテンポの速いぞめきをダイナミックに演出します。



「咲」

阿波おどりの衣装に多く用いられる配色の光の花が咲き乱れます。中音域の音色で光が昇り、高音域と低音域の音色で開花。踊りのしなやかさ、華やかさが引き立ちます。





Tokyo Koenji Awaodori

地元に根差して60余年。 人・町・心が紡いできた 「東京高円寺阿波おどり」のこと。

約1万人の踊り手と100万人を超える観客が織りなす、
東京の夏の風物詩「東京高円寺阿波おどり」。

その歴史や基礎知識、海外との交流、関連イベントなど、
知っておくと楽しいあれこれをまるごとご紹介します。

INDEX

東京高円寺阿波おどりの歴史 …… P4

「阿波おどり」って何？ 踊り、衣装、鳴り物解説 …… P5・6・7

踊りが繋ぐ日本と世界。東京高円寺阿波おどりin台湾 …… P7

イベントで楽しむ東京高円寺阿波おどり …… P8

町の文化発信地・杉並芸術会館「座・高円寺」 …… P9・10

ようこそ！
阿波おどりの町へ



© SUGINAMI CITY



「町を盛り上げたい！」若者たちの 熱い想いが開催のきっかけに

「東京高円寺阿波おどり」誕生のきっかけは、昭和32年、「この町に賑わいを」と立ち上がった商店街青年部の企画でした。ときに、阿佐ヶ谷では七夕まつりが盛り上がりを見せていた頃。隣町への対抗心から「徳島に阿波おどりというものがあるらしい、やってみよう」となったものの、本場の阿波おどりを知る人は誰もいません。日本舞踏の師匠に手ほどきを受けるなどの試行錯誤の末、囃子ことばの「同じ阿呆なら踊らにや損々」の“阿呆”を東京風に解釈し、「高円寺ばか踊り」として白塗り化粧で練り歩いたのが始まりでした。



昭和33年の第2回開催時。白塗りメイクで、踊りも今とまったく違います。

本場・徳島に指導を仰ぎ、 個性や技術を磨き高める芸能へと進化

栄えある第1回の開催後、ほどなく低迷期に。しかし昭和37年、都内の徳島県人の連で手ほどきを受け、踊りが飛躍的に上達。昭和40年代後半には踊りの個性を追求する連が揃い始め、存在感を増していきました。商店街の活性化事業だった高円寺阿波おどりが、技術や魅せ方を磨き高める芸能へと進化したのです。それから今に至る約30年もの間、徳島との深い関係を築き、高い芸術性を備えた東京を代表する祭りへと成長。地域の誇りとして、また人と人、地域と地域の絆を醸成するツールとして、大切に育まれています。



昭和37年の練習風景。徳島県人の連と交流し、踊りも鳴り物も本格的に。



腰を落とした本場流の「男踊り」が見てとれる、昭和40年・第9回開催時。

「あれは何?」「これはどうして?」を解説

はじめてでも分かる 高円寺阿波おどり

阿波おどりの基本的な構成や用語をご紹介します。

これさえ知っておけば、より深く踊りが
楽しめること間違いなし。



／ヤットサーヤットサー／

高張提灯

女踊り

鳴り物

男踊り

「連」

連名の入った「高張提灯」を先頭に、「女踊り」、「男踊り」、「鳴り物」で構成された1つのグループのことを「連」と呼びます。連ごとに異なる個性があり、踊りの集団美を追求した円熟味漂う連、「暴れ踊り」といわれる派手な動きで魅せる連、大太鼓をアクロバティックに奏でる連などさまざま。あなたもお好みの連を探してみてください。

「高張提灯」

通称「タカハリ」と呼ばれ、いわば連の看板。高さは4mほどあります。

「衣装」

衣装は、連ごとにイメージカラーやトレードマークをデザインしてオーダーメイドで作られます。個性が表れる着こなしや小物使いも、連ごとに統一されていることがほとんどです。

A. 浴衣、法被

連の個性を表現したデザイン。裾をはしより、踊りやすくなることもあります。

B. うちわ

手踊りを華やかに見せます。手に馴染むような柄を短くするなどの工夫も。

C. 編笠

鳥追い笠がルーツといわれ、女踊りの妖艶な雰囲気を出す小物です。

D. 手甲

ルーツはお遍路装束。ひじはゴムで絞り、手首はホックで留めています。

E. 帯、おはしより

半幅の黒帯で、お太鼓結びが基本。裾をはしよって帯に隠しています。

F. 踊り足袋、利休下駄
裏地がゴム仕様の阿波おどり専用足袋。女踊りでは黒塗りの利休下駄です。

「鳴り物」

踊り手を引き立てるお囃子は「鳴り物」と呼ばれます。二拍子のリズムを基本としますが、テンポや旋律は各連の個性によってさまざま。基本の5種の楽器のほか、鼓や尺八など、独自の楽器を取り入れる連もあります。

G. 鉦(かね)

テンポを変えたり音を止めたりする指揮者的存在。高い金属音が特徴です。

H. 大太鼓

約10kgの重量から生まれる重低音と振動で、躍動感たっぷり盛り上げます。

J. 締め太鼓

軽快なリズムを奏でる高音パートの楽器。演奏者のアレンジセンスが光ります。

K. 三味線

鳴り物の中でもっとも難しいといわれる楽器で、リズムの基本を作ります。

「女踊り」

つやっぼく上品なしぐさが美しい「女踊り」。大人数の動きがびたりと合った集団美が持ち味です。両手を頭の高さに挙げたまま、つま先立ちを続けるなど、見た目の優雅さとは裏腹にハードな面も。

「男踊り」

ひときわ賑やかでダイナミック、ときにユーモラスな振付が目を引く「男踊り」。腰を落として二拍子に合わせ、右手と右足、左手と左足を同時に出します。女性や子どもたちが踊る男踊りもポピュラーです。



あなたのお好みはどちら？

違いを知ろう! 「流し踊り」と「組み踊り」



「流し踊り」

高張提灯を先頭に「女踊り」「男踊り」「鳴り物」が連なり、隊列を組んで道を練り歩きながら踊る「流し踊り」。大人数による迫力が持ち味です。道幅いっぱい広がる大通りでの踊り、観客と踊り手の距離が近い商店街や路地での踊り、それぞれ異なる表情が楽しめます。



「組み踊り」

隊列をほだき、踊りのフォーメーションや鳴り物のパターンを変えながら演じる「組み踊り」。立体感のある動きやテクニックが試されます。趣向を凝らしたオリジナル演舞演出は各連の腕の見せどころです。

踊りを通じ、日本の伝統文化を世界に発信中!

阿波おどりがつなぐ、高円寺と台湾

2011年に始まった杉並区と台湾の中学生による野球交流。2015年には台湾の国立戯曲学院と杉並区の間で相互交流を推進する宣言が交わされ「東京高円寺阿波おどり台湾公演」がスタートしました。2015年の初公演では、70名の演者が台北市内で演舞を披露。2回目の2017年は、100名の演者が2地域4会場で公演。そして3回目の2019年には、総勢160名もの演者が、高雄市や雲林県など計6地域9会場で公演を行いました。また同時開催の「東京高円寺阿波おどりplus+in台湾」では、現地の人々に踊りをレクチャー。高円寺の本大会さながらの大盛況となりました。



夏だけではありません!

高円寺阿波おどり、さまざまな楽しみ方

TOKYO KOENJI AWAODORI PLUS+

東京高円寺 阿波おどりplus+

ちょっと参加してみたい人に
おすすめの月イチ体験会

「阿波おどりをやってみたい」「高円寺阿波おどりの歴史を知りたい」という声を受けて始まった体験プログラム。阿波おどりの観賞はもちろん、阿波おどりの歴史紹介、鳴り物や踊りのレクチャー&体験のほか、演者との写真撮影といった交流が盛りだくさん。ただ踊りを観るだけに留まらない、充実した内容でお送りします。言葉や世代を超えた場内の一体感とともに、阿波おどりをより身近に感じられるはず。



AKINO ZA-KOENJI AWAODORI

秋の座・ 高円寺阿波おどり

芸術としての阿波おどりに
じっくり向き合える

熱気あふれる夏の演舞場とは趣の異なる魅力をお届けする、秋の舞台公演「秋の座・高円寺阿波おどり」。例年11月の2日間(計8公演)のステージに、高円寺阿波おどり連協会に所属する30連全連が登場します。各連の個性豊かな旋律や組踊りの演出を見比べ、聴き比べる楽しみも! 劇場スタイルでゆったりと演舞鑑賞をお楽しみいただけます。



一緒に踊ったり、間近で
観覧したりできるよ



阿波おどりの動画を公開中!

Check!

迫力の空間を動画で感じてみましょう

熱気あふれる
「東京高円寺阿波おどり 本大会」
の様子はこちらから!



初心者歓迎! 阿波おどりが体験できる
「東京高円寺阿波おどりplus+」
の様子はこちらから!





人が集い、芸術文化が交わる 町に開かれた感動発信地

阿波おどりの練習場も
備えた施設だよ



来て、見て、感じてみませんか？ 「座」の施設名に託された想い

東京高円寺阿波おどりの催しや練習も行われる「座・高円寺」。芸術文化や町づくりの観点からも大切な施設です。開館は2009年5月。世界的建築家・伊東豊雄さんが設計を手掛け、企画の段階から地域の住民が意見を出し合い、演劇関係者にアドバイスをもらうなど、舞台芸術の想像と発信、地域に根差した杉並区の文化活動拠点として誕生しました。鉄板で囲われたユニークな建物は、扉を開けるとエントランスとロビーが地続きになり、建物の内外、施設と町がゆるやかに繋がる開放的な構造になっています。演劇、ダンス、コンサートなどの舞台公演や阿波おどり関連企画はもちろん、子どもたちに向けたワークショップや「座の市」、演劇資料室の運営など、「集いの場」の意味を持つ施設の名前通り、いつでも誰にでも開かれた町の広場として親しまれています。



建物の構造は、地上3階、地下3階。丸窓から柔らかい光が差し込むらせん階段が、各フロアを繋ぎます。



施設内には、大きさや形状の異なる3つのホールが。ギャラリースペースや道具・衣装制作の作業場もあります。

絵本と週替わりのスイーツがおすすめ！ 「カフェ アンリ・ファール」

「座・高円寺」2階にある「カフェ アンリ・ファール」は、広々とした空間で落ち着いた時間を過ごせる絵本カフェ。カフェ利用者が自由に閲覧できる約250冊の絵本は、2,000冊を超える蔵書から、季節やテーマに合わせて入れ替え展示されています。座席間隔にゆとりがあるため、ベビーカーや車椅子でも安心。オリジナルの定番メニュー・季節メニューのほか、杉並区内の名店の人気メニューも提供。パティシエがつくる週替わりのスイーツは特に人気が高く、他のフードやドリンクとセットで注文するとさらにお得に。店長の大谷尚義さんは、阿波おどりの故郷・徳島県出身。「絵本はお子さま向けだけでなく、大人も夢中で楽しめるラインアップです。公演の前後はもちろん、公演がないときでも気軽にお立ち寄りください。地域のおいしい銘品とともにお待ちしております。」



コーヒーの監修は、高円寺にある1933年創業の老舗コーヒー専門店「さわこふい」。



阿佐ヶ谷の人気ジェラート店「ジェラテリア シンチェリータ」の「メルノワ」。国際大会の入賞ジェラート！



月に一度の食のマルシェ

「座の市」

毎月第3土曜日に開催される、劇場前広場のたべもの市場「座の市」。杉並区の名産品はもちろん、各地の朝どれ野菜や自慢の味が並び、「座・高円寺」のエントランスが彩り豊かに賑わいます。

おいしいが大集合！

Check!

「座・高円寺」を建築的視点で紹介するウェブ記事
「杉並の名建築を訪ねる(座・高円寺)」
(中央線のあるあるプロジェクト)はこちらから！

